

令和7年度 千葉県における「こういか東京湾海域」に係る資源管理協定の取組の効果の検証結果（中間）

（1）千葉県におけるコウイカの漁業実態

千葉県においてコウイカは東京湾内湾海域南部～内房海域北部の重要な資源となっており、主に小型機船底びき網漁業で漁獲されている。一方、近年は漁獲量が減少傾向となっている。

（2）資源管理の目標及び目標達成のための具体的な取組

目標（千葉県資源管理方針に定める資源管理の方向性）

千葉県沿岸水産資源の資源評価において判断される中位以上の資源水準（小型機船底びき網漁業のCPUEで1網当たり1.6キログラムを上回る資源水準）を維持する。

該当する資源管理協定

「こういか東京湾海域」に係る資源管理協定（以下、協定という。）は下表のとおりで、1漁協所属の約10名がコウイカを対象とした協定に参加しており、このうち本検証の対象となるのは、1協定となっている。

協定	備考
新富津	

本検証の対象協定

自主的取組

東京湾内湾の小型機船底びき網漁業では、関係漁業者により、内湾底びき網連絡協議会が組織されており、資源管理の取組は当該協議会で協議決定の上、実践している。

漁業の種類	資源管理の取組	取組の内容	備考
小型機船底びき網漁業	休漁日の設定	定期休漁（火・土曜日）	
	操業時間の制限、 漁具の制限等	漁具の制限：桁幅の制限 操業時間：内湾底びき網連絡協議会で資源状況等に応じて協議決定	

協定に記載されている取組

上記取組の他、小型機船底びき網漁業では資源状況等に合わせて内湾底びき網連絡協議会で協議決定した、年末年始お盆期間の休漁、禁漁期間の設定といった様々な取組を実施し、状況に応じた検討を行っている。また、1996年から漁業者による産卵床の設置が行われている。

(3) 資源管理の取組状況

本県の東京湾主要漁協におけるコウイカの漁獲量は 1999 年以降増減を繰り返している。近年は 2017 年に 31 トンとなった後減少傾向にあり、2024 年は 5 トンであった(図 1)。県の令和 7 年(2025)度資源評価では、現在の資源動向は減少、資源水準は低位となっている(図 2)。協定参加者による検証(以下、自己点検という。)では、漁獲努力量は維持されているものの、漁獲量及び CPUE(単位努力量あたり漁獲量)は減少していると判断されている。なお、魚価(単価)は維持されていると判断されている。

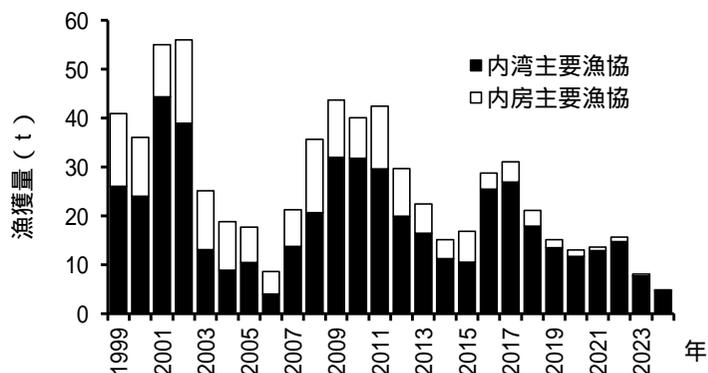


図 1 東京湾主要漁協におけるコウイカ漁獲量の経年変化 (千葉県調べ)

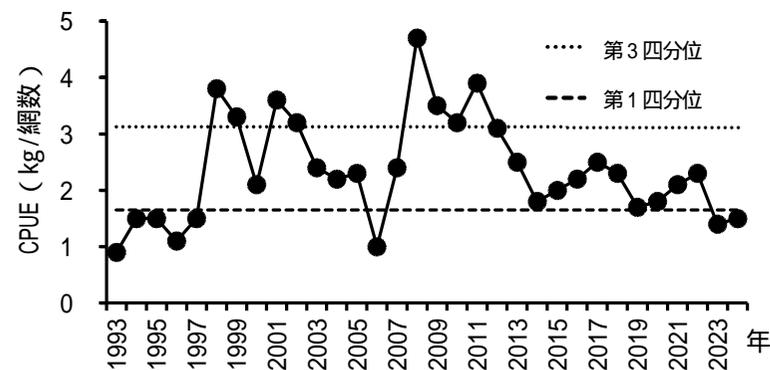


図 2 小型機船底びき網の標本漁船によるコウイカの 1 網当たり漁獲量の経年変化(千葉県調べ)

(4) 資源管理の効果を高めるための協定の改善・高度化の検討

コウイカについては休漁日の設定や操業時間の制限、産卵床の設置といった取組が実施されているものの、直近年の資源水準は資源管理の目標を下回っており、自己点検では漁獲努力量は維持していると判断される中、漁獲量や CPUE の減少などにより「取組の効果は感じない」とされた。一方で、現在の取組が不十分とは判断されておらず、効果を感じられない要因は海洋環境による影響と判断されている。実際に、協定参加者の主漁場である東京湾内湾は貧酸素水塊等の海洋環境が漁業に大きく影響する海域であることも踏まえると、海洋環境が漁獲量や資源の減少の要因の 1 つである可能性がある。現在、県では東京湾漁場環境改善に向けた一都二県の漁業者の取組の支援や、魚介類の産卵・生育の場である干潟の維持・保全を図るための覆砂等の取組を実施しており、漁業者による自主的な資源管理と共に推進していく必要があると考えられる。

このため、漁業者が資源の有効利用を図るためには、現在の取組を継続していくとともに、今後の海洋環境の変化や資源状況を注視し、状況に応じた対応を検討していくことが重要と考えられる。